

きたネットニュース

ラブアースの森づくり ~ごみ拾い活動からつづく 環境活動 [札幌]



2009年から4年間に植樹した樹木はハルニレやイヌエンジュ、ヤマグワ等、約1500本。自然生態の復元と創造のために、風土にあった樹種を選び、地植えし、防風にドロノキを周囲に植えるという手法を取り入れ、豊かな広葉樹の森にするため植樹しました。現在は樹木がより良い環境で成長できるように、下草刈りや枝打ち等、育樹活動に取り組んでいます。10年後、100年後、札幌を代表する森に育ってほしいと思っています。



■2015年度作業内容
5月～7月：下草刈り(のべ43名)
10月：下枝払い・除伐(17名)

共催：NPO法人森林遊びサポートセンター

※札幌市とNPO法人森林遊びサポートセンターとの三者協定により、茨戸川緑地公園でさっぽろふるさとの森づくりを実施中。

[白老]



2006年から5年間、カミネッコン(段ボール植樹枠)を使用し、北ぐにの森づくりサークルの指導のもと、森林再生のための植樹を行いました。植樹地は、周辺の森のカラマツやシラカバなどの種が飛んできて苗が育ち、植樹した樹木の隙間を埋め、大変混んだ状態になって、今はそれらの除間伐を中心にして森づくりをすすめています。森の手入れのために木を倒すと、その豪快さに圧倒され、命の尊さを感じます。森づくりは樹木を観察し、見極めて育てることが大事であることを学んでいます。



■2015年度作業内容
10月10日：枝打ち・除間伐(31名)

共催：NPO法人ウヨロ環境トラスト

※作業の後のをお楽しみは、森でのバーベキューと、ウヨロ川フットパスウォーキングでの自然観察、今もたくさんの方が参加してくださいました。



フットパスウォーキング



「きたネット発 市民活動助成セミナー2015」 9助成団体の参加で開催 (10/18)

今年で10年目の助成セミナーを札幌市のなかで2.7で開催しました。第一部は「活動基盤強化セミナー」。きたネット会員団体の「認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト」副理事長の瓜田勝也さんを講師に、企業や地域、会員との関係づくりにポイントをあててお話しいただきました。同トラストは1986年から、霧多布湿原の環境保全と自然と共生する暮らしづくりに取組んでいます。道内外に2157個人・115法人の会員、さらにタカナシ乳業(株)やキューピー(株)、(一財)セブン-イレブン記念財団など11企業・団体が、寄付やキャンペーンなどの形で活動に協賛しています(2015年7月現在)。設立以来19年間の会員は延べ4000名、うち7割は同湿原を訪れた人たち。実験した人が知人や勤務先に魅力を伝えて入会を呼びかけ、企業が企業を紹介して、支援が広がっていました。支援者との関係づくりのポイントは(1)団体の活動を体感できる仕組みをつくる(2)賛同しやすい仕組み=開発反対ではなく、活動のファンを増やす「この指とまれ」を心がける(3)1人の1億円ではなく、1億人の1円=会費は年間1000円と低額、高額資金が必要な時は別途寄付をお願いする(4)会員同士の交流行事を行う、と話してくれました。

第二部は市民活動を対象にした助成団体の担当者に、制度の特徴や申請のポイントなどをお話しいただきました。「水辺の活動支援のイメージが強いが、こんな活動も支援している」「助成とは違う支援方法を提案できるケースもある」「対象外と思いつまず相談してほしい」と参加者に呼びかける場面もありました。

第三部は「個別相談会」。参加者は活動資料や事業計画書などを手に、複数の団体ブースを訪れて、熱心に質問をしていました。参加者からは「活動に適した申請分野を教えてもらった。早速申請します」といった声が寄せられました。

**■主催：認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク
一般財団法人セブン-イレブン記念財団**

※第一部と第二部の録画を、インターネットで配信予定です。詳細はHPでご覧ください。



当日の配布資料
ご希望の方は
お問合せください

きたネット会員 KITA-NET MEMBERS



NPO法人北海道エコビレッジ 推進プロジェクト

持続可能な暮らしと地域モデルをめざして

持続可能(サスティナビリティ)は現代のキーワードです。具体的なイメージを共有する前に「理想論」「江戸時代に戻るのか」という声も聞こえてきそうな曖昧なこの言葉。その絵をみんなでポジティブに描きたい、「エコビレッジ」の考え方や実践例にはそのヒントがあると考え、2009年から農的暮らしやエコロジカルな住まいの技術など様々な学びのプログラムを提供してきました。初めは都市住民向けのプログラムが中心でしたが、2012年に余市町に拠点を構えてからは、より地域に根ざした活動を展開しています。フットパスツアーやスイーツコンテストなどを通じて地域住民と共に地域のよさを発信したり、子ども農村体験の受け皿をつくりながら多様な地元ネットワークを築いているところです。2014年の研修棟建設では幅広い専門家や企業とのコラボレーションも生まれました。持続可能な社会の実現には環境テクノロジーも大切ですが、多世代異分野の交流が不可欠だと実感しています。私たちの取り組みがひとつのモデルとなり、都市での実践者や農村に新しい働き方を求める人が増え、互いに楽しくつながっていく未来を提案したいと思います。

[電話]0135-22-6666(余市事務所)、090-1303-6485(坂本)
[HP]<http://ecovillage.greenwebs.net/>

きたネットチョイス

KITA-NET CHOICE

Book

「環境中間支援会議・北海道」の本



「環境☆ナビ北海道」<http://enavi-hokkaido.net/>

Event

きたネット主・共催イベントです。
詳細はお問い合わせください

「もうひとつの北海道環境白書2」好評発売中です。

きたネットは、環境中間支援組織のコンソーシアム「環境中間支援会議・北海道」に参加しています。環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)と、きたネットの4組織が連携して、環境活動を支援するために、より効率的に役立つ組織を目指し設立しました。官設置の組織と民間団体が、それぞれ連携を事業計画に組み込み、運営費を出し合う、全国でも他にはない組織です。2008年の準備会議から7年、北海道の環境活動のポータルサイト「環境☆ナビ北海道」の運営や、セミナー等の共同開催、サービス向上のための内部勉強会も行っています。また、北海道大学大学院環境科学院との連携で、北海道の環境活動のパイオニアの歩みをインタビューとデータで紹介する「もうひとつの北海道環境白書2012」を発行(販売終了)。2014年には、多様なフィールドで挑戦する方々のヒューマンストーリーを通じて、北海道が歩むべき道、持続可能な社会の実現に向けた道筋を考える「もうひとつの北海道環境白書2」を作成、発行しました。ぜひ手に取ってご覧ください。

[編集・発行] 環境中間支援会議・北海道×北海道大学大学院環境科学院
[価格] 1,200円+税 A5版176ページ、フルカラー [お問い合わせ]きたネット事務局

- 11/4(水)20:00～きたネットラジオカフェ(札幌のコミュニティFM ラジオカロスで隔月放送 <http://www.radiokaros.com/>)
- 11/6(金)～11/8(日)テッラ・マードレ北海道 札幌大会(11/7はきたネットフォーラムと同日開催)
会場：札幌市 北海道大学FMI国際拠点他
- 11月下旬～12月(予定)森林・山村多面的機能發揮対策交付金事業説明&活動報告会 旭川・帯広・北見で開催 詳細はHPで。